

入試年度	2026年度	入試時期	I期入学試験	実施日	2025年9月26日
課程	博士前期課程	研究科	国際日本学研究科	専攻・コース	国際日本学専攻 ポップカルチャー研究領域
入試方式	一般入学試験/ 外国人留学生入学試験		試験科目	専門科目	

「出題の意図」および「解答」または「解答例」

I. 論述問題

【出題の意図】

2題のうち1題を選んで、マンガ・アニメ・ゲーム・特撮等の歴史を、特定のテーマや観点に沿って整理して述べるができるかを問うている。なお、実質的に小論文を記すことを求める問題であり、多様な回答が考えられ、その全てを示すことは分量が膨大になりすぎ、また一部のみを示すことは出題の趣旨をかえって誤って理解させるものとなるため、一意の解答例は公表を避ける代わりに、キーワードや採点時に重視した観点を解説する。また、下記の解答例から離れた内容の解答であっても、問題文に即して内容が的確であれば適宜評価するものとした。

【解答例（採点時の観点）】

- (1) 米アタリ社の『Breakout』を下敷きにして『スペースインベーダー』が開発されるにいたる経緯、その『スペースインベーダー』の社会的流行とテーブル型筐体・汎用型ゲーム機の登場により全国の喫茶店へのゲーム機の導入や専門ゲームセンターの発達が進んだこと、『ストリートファイターII』や『beatmania』、『Dance Dance Revolution』に牽引されて対戦型格闘ゲームや音楽ゲームのブームが起こり、ギャラリーを魅せることが重視されるようになったこと、そしてその時々の人気アーケードゲームの移植作品が「ファミリーコンピュータ」や「セガサターン」などの家庭用ゲーム機の有力なローンチタイトルとして機能してきたことなどを、それぞれの事象の年代とともに記しつつ、ゲームの内容や技術、産業など複数の観点から、歴史的ナラティブを構築する論述のしかたができていているかを評価した。
- (2) 少女向けアニメといえば魔法少女ものだけがとり上げられる傾向にあるが、ここでは、少女マンガ原作のアニメにも目を向けて立体的な記述ができるかどうかをみる問題となっている。横山光輝原作の『魔法使いサリー』に始まる魔法少女アニメや、『ひみつのアッコちゃん』にはじまる「変身」がキーワードになる物語、その二つが合体した変身魔法少女ものの流れ、あるいは、『アタック No.1』『エースをねらえ!』などのスポーツ作品、『エースをねらえ!』の演出の出崎統が総監督をつとめた『ベルサイユのばら』、80年代に世界的なヒットとなった『キャンディ・キャンディ』、最初からマンガとアニメとが連動して進んでいく形で制作が行われた『美少女戦士セーラームーン』や『少女革命ウテナ』、日曜夜の定番アニメ『ちびまる子ちゃん』、そのほか『ときめきトゥナイト』『カードキャプターさくら』など主要な作品に触れつつ、ラブコメ系の作品、『こどものおもちゃ』『しゅごキャラ!』などテーマ性の強い作品など、ジャンルごとのヒット作、ジャンル間の共通性と差異、掲載雑誌ごとの特徴や変遷、マンガ原作をどのようにアニメーション表現にアダプテーションしているかなど複数の観点から、そこに説得力あるナラティブを構築する論述のしかたができていているかを評価した。

II.用語解説

【出題の意図】

4 題のうち 2 題を選んで、マンガ・アニメ・ゲーム・特撮等の重要な作家、作品、ジャンル、用語についての確に説明できるかを問うている。なお、実質的に短い小論文を記すことを求める問題であり、多様な回答が考えられ、その全てを示すことは分量が膨大になりすぎ、また一部のみを示すことは出題の趣旨をかえって誤って理解させるものとなるため、一意の解答例は公表を避ける代わりに、キーワードや採点時に重視した観点を解説する。また、下記の解答例から離れた内容の解答であっても、問題文に即して内容が的確であれば適宜評価するものとした。

【解答例（採点時の観点）】

- (1) 80 年代から現在に至るまで活躍し続けている SF 漫画家であり、ゲーム作品のキャラクターデザインやメカニックデザインも数多く手がけていること、アニメ化もされている代表作『攻殻機動隊』や『アップルシード』などのタイトル、その作品のサイバーパンク的な世界観など、作家としてのプロフィールと仕事の特徴に触れられているかを評価した。
- (2) テーブルトーク・ロールプレイングゲーム（もしくは tabletop role-playing game）の略であること、アメリカで生まれた後、日本に紹介・導入されたこと、ゲームの遊び方や用いる道具、代表的なジャンルの説明、代表的作品としての『ダンジョンズ&ドラゴンズ』、日本における普及に大きな役割を果たした『ロードス島戦記』、パソコンやゲーム機等によるロールプレイングゲームとの関係などについて、的確に解説されているかを評価した。
- (3) 玩具メーカーのポピーが 1970 年代に展開し始め、同社を合併後はバンダイが展開している金属／ダイキャスト製のキャラクター商品のシリーズ名であること、シリーズの起点となったのが『マジンガー Z』の玩具であり、作中の架空の合金「超合金 Z」から名を取っていること、その商品としての大ヒットが 1970 年代にロボットアニメが日本で作られ続け、ジャンル化される上で重要な役割を果たしたことなどについて、的確に解説されているかを評価した。
- (4) 白井儀人により 1990 年代に青年マンガ誌上で連載開始された日本のマンガ作品であり、同作品を原作にテレビアニメや劇場用アニメ作品群などが作られていること、アニメ化とともに大ヒットを果たし、マンガ・アニメともに 2025 年現在にいたるまで作られ続けていること、主人公が幼稚園児であることやその家族構成、日常を舞台としたコメディとしての内容的特質、埼玉県春日部市を主な舞台としており同市のイメージキャラクターにもなっていること、作品の国際展開などについて、的確に解説されているかを評価した。

合否判定の方法及び基準

入学試験は国際日本学研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。

合否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。